

「我ママ」と「運動会」

コロナ禍での運動会。いよいよ明後日となりました。今年 75 周年を迎えている新渡戸文化子ども園ですが、運動会は今年度で 10 回目記念の運動会。東京オリンピックに刺激された「社会の事象に刺激された」子どもたちの「新渡戸オリンピック」です。

みなさんは、運動会の成り立ちをご存知ですか？農耕民族である私たちの祖先は農業に勤しんでいる人が大半だった頃、稲刈りが終わり、ほっとした所で、豊作の秋祭りとともに、子どもたちもよくお手伝いをして、頑張ってくれたから地域の皆で学校を通じて子どもたちの成長も、お米の豊作とともにお祝いしながら家族皆で楽しもう！が起源であると、若い時分に参加した研修会で聞いたことがあります。

昨年の運動会は、開催することに必死でしたが、今年度はこの成り立ちの話と「コロナの終息を願い、少し減少傾向にある数字などにちょっとだけ笑顔になりながら」の運動会になれば良いと強く願っております。運動会では、園長メッセージを割愛しておりますのでここでメッセージさせていただきます。

「保護者の皆様も、この 1 年 9 ヶ月。コロナ禍の中、家族そしてお仕事でどれだけ大変な思いをされたことでしょうか。それはきっと周りの保護者様や先生方も全く同じ気持ちです。そんな中でも、皆様の大切なお子様はこんなに成長なさっていますよ。全員でそのご成長を見守りながら、ここまで保護者様と先生方がともに乗り越えてきたことをお祝いしましょう。そしてまだ終わらないコロナとの戦いを、力合わせて乗り越える糧とできる新渡戸オリンピックとなりましたら幸いにございます。」

今月は年中チーム担任 3 名の我がママ自慢です。

(石澤)

- ・料理上手で帰宅時間の違う、私、弟、父のそれぞれに合わせて毎度料理をし、出してくれる
- ・小さい頃から私の全てを肯定し褒めながら、自分の意思をはっきり持ち、いけないことは助言してくれる。そんな信頼関係があるからこそ、私も自分の意見を率直にぶつけることができる大事な存在
- ・ユーモア溢れる父の行動にツッコミながら笑い、夫婦仲良く過ごしている。私にとって理想の夫婦

(月岡)

- ・とてもポジティブ。私が弱音を吐いていると「やるしかないから」と気持ちを切り替えさせてくれ、一緒にいるとポジティブな気持ちになる
- ・ビーズアクセサリー作りが得意で私が幼い頃は作ったものを知人によくプレゼントしていた
- ・ご近所付き合いなど人の繋がりをすごく大切にしている。太く深く、人との縁を大切にしている

(青木)

- ・兄、姉、私と 3 人の子どもを育ててくれ、私の出産の際に医師から母親が助からない可能性を告げられても私を産む選択をし、命をかけて私たちを守ってくれた母として尊敬している
- 看護師として働きながら、家族の介護、仕事を両立し、家庭を支えてくれている
餃子とコロッケは世界一おいしい

深い愛情で見守りながら、擁護しながらも、子どもを「子供扱い」せず、一人の人間として対峙する瞬間があることが、これから先の読めない未来を生き抜いていく「子育ての鍵」のように思います。コロナ。お子様を子ども扱いせずに「一人の人間として」どう対処していくのかを、大人の私たちが伝えていきましょう。私たち大人には、子どもたちがまだ持っていない伝える言葉がありますから。

そしてそれらの言葉は、お子様にとりましては大変大きな学びとなっていくだろうことは、間違いのないと感じている日々でございます。